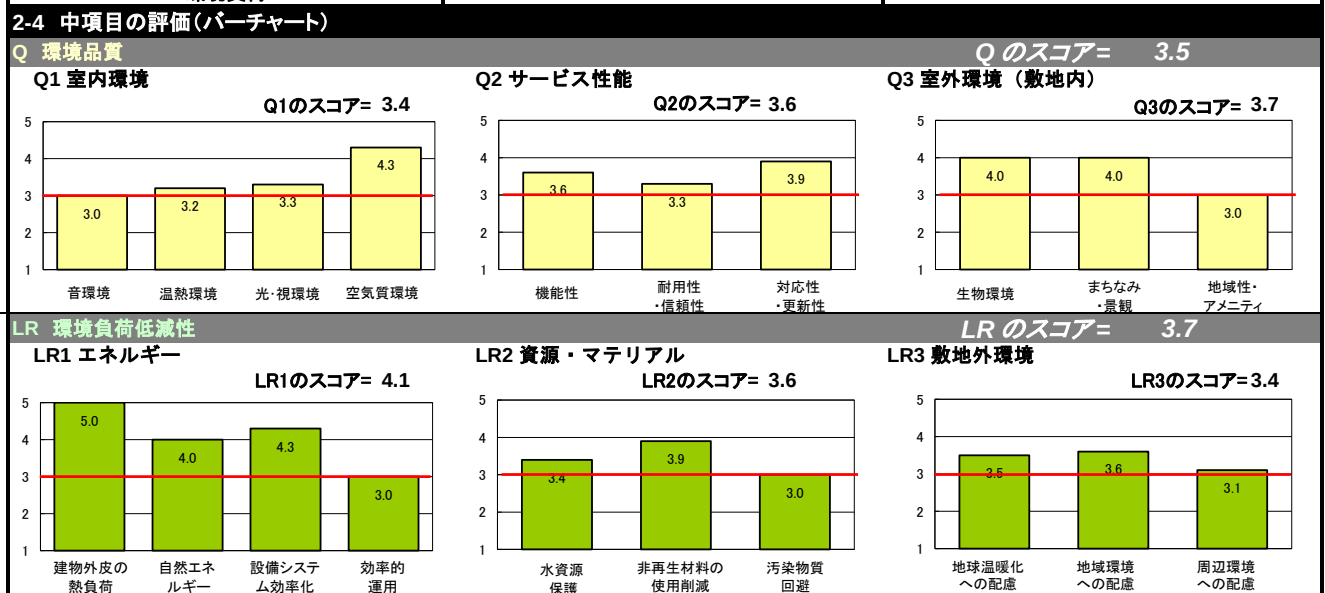
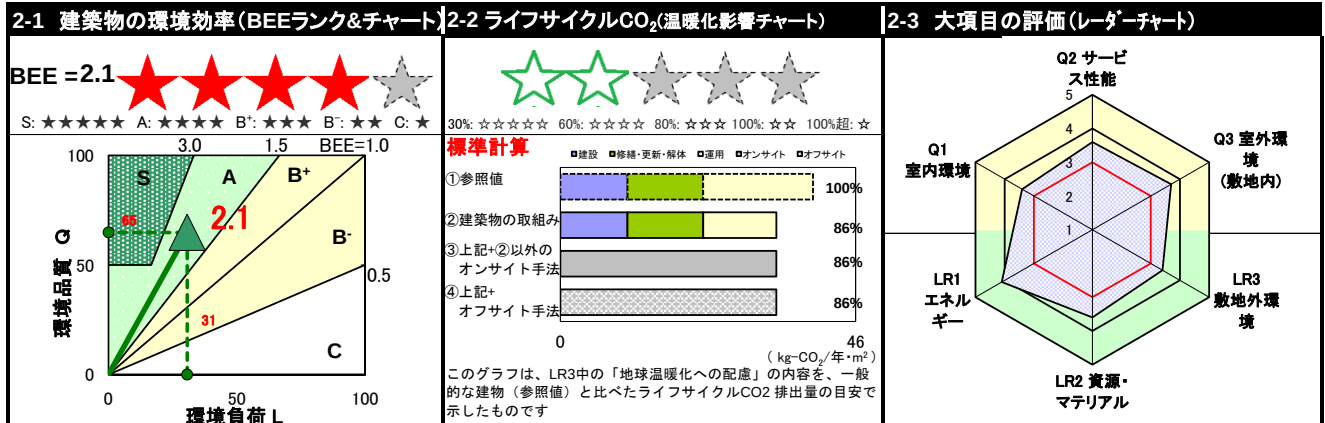


CASBEE®名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境性能評価システム (2016年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	名古屋東部地区新設特別支援学校(仮称)	階数	地上3F	
建設地	名古屋市中区菅田一丁目501番、11番1、12番1、16番1	構造	S造	
用途地域	第一種住居地域、準防火地域、31m高度地区、緑化地域、河川保全区域	平均居住人員	172 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	1,376 時間/年(想定値)	
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2027年2月 予定	評価の実施日	2025年5月1日	
敷地面積	14,252 m ²	作成者		
建築面積	3,087 m ²	確認日	2025年5月1日	
延床面積	6,800 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項		
総合 ・肢体不自由の児童生徒が安心して通える特別支援学校 ・様々な障がい者配慮したすべての人が使いやすい学校 ・周辺環境に配慮した自然豊かな学校 ・災害時にも安心して利用される学校		その他 特になし
Q1 室内環境 複層ガラスのLow-Eを採用し、室内への熱負荷の軽減に配慮した。	Q2 サービス性能 普通教室を南西側に配置し、明るく過ごしやすい環境とした。中庭を設けることで、校舎中央への採光が確保できる計画とした。すべての児童生徒が使いやすく、教職員が見守りやすいデザインとし、維持管理・メンテナンスしやすい計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺には天白川や公園等があり、自然豊かであるため、周辺環境に配慮した外構計画とした。既存樹木の撤去は必要最低限とした。また、既存体育館との調和を図った外観計画とした。
LR1 エネルギー 機能性と経済性の両立を図った設備機器等を選定した。非常用発電機を設置し、災害や停電時でも最低限の電力供給が可能な計画とした。	LR2 資源・マテリアル 内装木質化を図り、愛知県産材の木材を積極的に採用する計画とした。	LR3 敷地外環境 雨水排水流出抑制対策とし、既存貯留槽を活用した。自然環境に配慮した植栽・外構計画を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

名古屋東部地区新設特別支援学校(仮称)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.05	
2. 自然共生				3.5
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 3.5



3. 循環型社会

評価点 = 3.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。